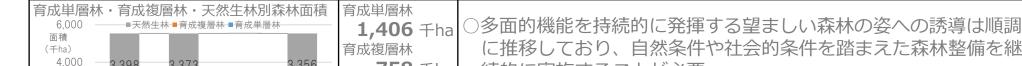
## (参考) 前「北海道森林づくり基本計画」 の推進管理表

【参考】北海道森林づくり基本計画推進管理表 (令和2年度第1回森林審議会資料抜粋) ■長期的な目標の指標ごとの検証評価 指標値 検証評価





3.398 3.373 3.356 **758** 千ha 続的に実施することが必要 天然生林 2.000 **3,373** 千ha

,345

R18

◎森林の有する多面的機能の持続的発揮を図るため、森林の区分に 応じた適切な森林整備や保全を着実に実施

林業及び木材産業等の健全な発展

.434



.406

**463** 万m<sup>3</sup> (順調)

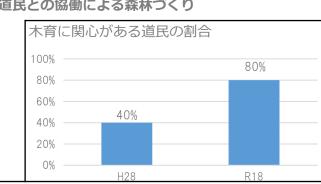
(順調)

状況であり、今後本格的な利用期を迎えるトドマツ等の人工林資 源を最大限に有効活用していくことが必要 ◎道内の木材生産・流通体制を強化し、建築材など付加価値の高い トドマツ等木材製品の需要を拡大するとともに、身近な暮らしの 中で道産木材の利用など新たな需要を創出 ◎事業体の経営基盤強化や北森カレッジの活用などにより、本道の

林業・木材産業を将来にわたって支える担い手を育成・確保

○カラマツを中心とした道産木材の利用量は順調に増加しているが、 道内でも人口減少が進み、住宅着工数の大幅な増加は見込めない

## 道民との協働による森林づくり



- (H28) 40 % (道民認知度) 【その他】
- ○民間主体の木育活動も見られる中、道民の木育活動への関心を一 層高めることが必要
- ◎引き続き、企業や教育関係機関など多様な主体との連携を促進す るとともに、「植樹の日・育樹の日」の普及啓発や第44回全国育 樹祭の開催(R3に延期)を契機に、木育の道民運動としての定 着を促進

施策の展開方向			検証評価	
指標の名称		主な取組・実績		
	現在値(H30)		現状と主な課題	検討方向
森林の整備の推進及び保全の確保				
森林の蓄積と地球温暖化防止機能				
	(蓄積) 815百万m³ 【順調】 (炭熱流量) 325百万c相当 【順調】	【R元取組・実績】  ◆資源の充実に向けた計画的な森林の整備・森林整備事業(公共)、未来につなぐ森づくり推進事業(道単)等により、計画的な伐採、再造林や間伐などを実施(H30:造林約7.3千ha、下刈・間伐等約51千ha、林道等約95km)・北海道コンテナ苗利用拡大推進方針を策定・エゾシカや野ねずみなどによる森林被害対策を実施  ◆多様で健全な森林の育成・保全・森林環境譲与税を活用し市町村が主体となった森林づくりが円滑に進むよう支援	【現状】 計画的な森林整備の推進により、森林の蓄積等は順調に増加 【課題】 利用期を迎えた人工林の伐採が今後さらに進むより資源の保続を図ることが必要 【現状】 R2年度より森林環境譲与税が前倒し増額 【課題】 市町村に譲与される森林環境譲与税が有効に活用され森林整備が着実に進められることが必要	【検討方向】 ・安定的に予算を確保しながら、継続的な森林整備や森林被害の防除対策を推進 ・クリーンラーチ民間採種園の整備や、北海道コンテナ苗利用拡大推進方針に基づくコンテナ苗生産体制の整備などにより優良種苗を安定的に確保し、造林や保育の省力化を図ることで林業イノベーションを推進  【検討方向】 ・道への譲与税を活用し、研修会の開催、相談窓口の設置、システムの整備など市町村への支援を強化
森林所有者等が生物多様性の保全のため特に森林の整備・保全を行う面積				
	<b>8</b> 万ha 【概 <b>ね順調</b> 】	【R元取組・実績】 ◆多様で健全な森林の育成・保全 ・発揮を期待する機能に応じ適切な森林の整備・保全を推進 ・地域森林計画において、市町村が「生物 多様性保全ゾーン」を設定する基準や施 業方法を定めたほか、自然公園内の候補 森林をリストアップして指定拡大を推進 ・渓流生態系保全のため治山ダムへの魚道 設置(R元:2基)	【現状】 市町村における生物多様性 ゾーンの設定は概ね順調に 推移 【課題】 引き続き、市町村へ生物多 様性ゾーンの設定基準等に ついて周知が必要	【検討方向】 ・市町村に対し、適切な「生物多様性ゾーン」の指定拡大を推進 ・生物多様性の保全と国土の保全との両立に配慮し治山ダムを改良